

おひざのうえで 2025④

(副園長の子育て応援 Letter)

「年 輪」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで

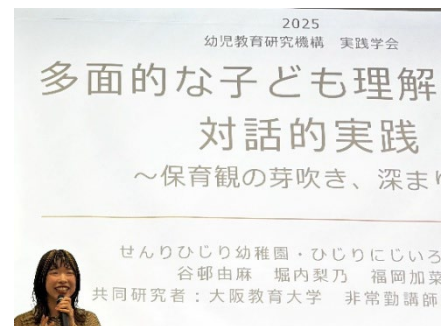


暑い暑い夏でしたが(まだ記録的な暑さが続いています)皆様どのようにお過ごしでしたか？ 外出するのに覚悟があるほどの暑い夏。子どもを連れていくところも限られてくるので、さぞ大変だったとお察しします。本当にお疲れさまでした。

私たちは、夏の間、様々な研修に参加しました。

中でも、東京家政大学で開催された日本幼児教育実践学会では、かな先生、ゆま先生、りの先生が口頭発表をしました。

子どもを多面的に理解する「子どもステップ会議」の内容とその会議で先生たちの発言がどのような意味や役割を持つのかを分析した発表でした。3人の先生は夏休みをほとんどこれに費やしたのではないかと思います。細かく丁寧な分析で、結果や考察もなるほど心に響くものでした。せんりひじりの研究員として協力してくれたのは元職員の(今は大妻女子大の大学院生)あかね先生。何度も zoom で打ち合わせに参加してくれて、研究の方向性も共に考えてくれました。そして、この発表は研究者との共同研究で申請することになっていますが、ちょうど園長が大阪教育大学の講師をしていることもあり、共同研究者として、最後のまとめも研究者の立場からしてくれました。全国の多くの口頭発表の中で、せんりひじりの口頭発表の参加申込者が1番多かったそうで、「申し込んだけど、入れなかった」という北海道の先生もいて、注目してくださった方々に感謝です。



私たちは、子ども理解のために様々な取り組みを長年続けてきましたが、普段の対話の中に、若手を育てる気配りの土壌も培われていたことを改めて感じました。若手の先生が難しいなと思っていることに対して、先輩の先生が正解を言うのではなく、「その子はどんな遊びが好き？」「いつも誰と遊んでいるの？」などの質問から視野を広げ、見方や関わり方のヒントを自ら見つけていけるようなやりとりがなされ、その若手の成長をみんなで見守り支えている構図が浮かび上がりました。

また、今回、教頭の藤原晴子先生が、全国の優秀教員表彰を受賞しました。全国で6名のうちの1人です。長年保育に携わり、大阪府のプロジェクト研究にも寄与し、数年前に実践学会でも口頭発表しましたが、若手の育成にも尽力してきた教員に表彰されます。事務局の厳しい審査の上、選ばれました。終始「私



なんかが…」と謙虚に言って、恥ずかしがって視線も上げてくれない晴子先生でした。

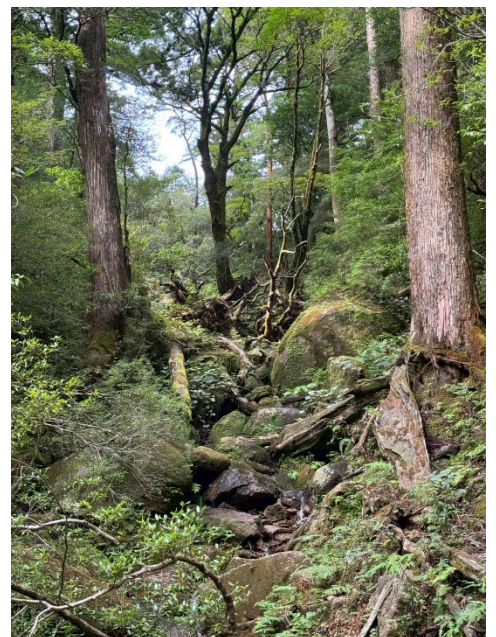
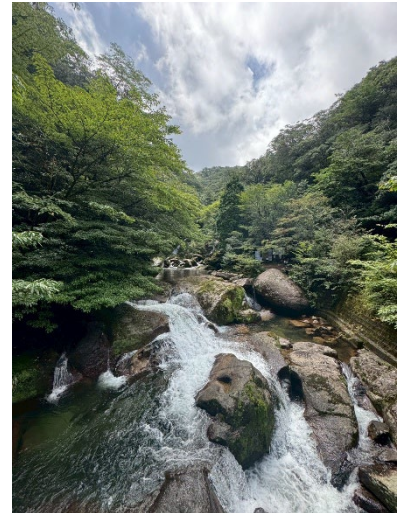
そして、実践学会が終わった後夏休みをいただき、息子家族(孫は 3 歳と 6 歳)と屋久島に行ってきました。

羽田で合流し、鹿児島経由で屋久島に到着予定でしたが、屋久島の上空で天候が荒れ、着陸できないので鹿児島空港に引き返すとの機内アナウンス。仕方がないので、鹿児島に着陸後すぐに高速フェリーを予約し、最終便に間に合いました。ところが、海は台風の影響+満潮に近づいて大荒れ。船酔いする私は酔い止めを 2 錠飲んで、覚悟を決めて乗船。窓の外は真っ白で視界もほとんどありません。20 分ほど波に揺られたころ、船内アナウンスで「視界が悪く危険なため、鹿児島港に引き返します」とのこと…。

フェリー乗り場は行き場を失った人でごった返していました。鹿児島に宿泊するしかなくなり、移動のためにタクシーを待つも、長蛇の列。園長と息子が風雨でびしょぬれになりながら交代で並び待つこと 2 時間半。やっとの思いで鹿児島のホテルにたどり着きました。

何かあってもただでは転ばない私たちですから、こんな状況でも何か得るものを…と思い、嵐の港を眺めながら、孫と台風の自然現象をたっぷり味わいました。だんだん人気がなくなっていく待合室で、絶賛反抗期の 3 歳の孫が飽きないように遊ばせるのはちょっと大変でした。毎日子育てしているママはえらいなあと改めて感じました。次の日は午前中が欠航。なので、近くのさびれた？水族館に行きました。しかし、中に入ってみると、実験や観察の学習コーナーが工夫されていたり、狭いからこそ、イルカショーが間近で見れたり、想像以上に学びの多い水族館でした。鹿児島は、明治維新の波を起こした歴史地区。今度は、経由地ではなく目的地としてゆっくり回りたいなと思いました。

屋久島は、岩盤が隆起してできた島ですので、肥沃な土地ではなく、作物が育ちにくい島です。栄養のない土地に自生するため、屋久杉は一年に薄皮 1 枚ほどしか年輪が育ちません。なので、樹齢 1000 年以上のものがその場に生き続けることができるのだそうです。また、屋久杉自ら年輪の間に、アロマの樹液を出すことによって虫も寄せ付けない仕組みになっているとのこと。ですから倒木もほとんど朽ちることなく、そこに苔が生え、種から自生して新たな樹木が伸びていくというなんとも神秘的な場所でした。ご存知の方も多いと思いますが、宮崎駿監督の「もののけ姫」のモデルになった場所でもあります。岩山でできた島ですので、雨水は滝のように岩場を落ちて下流に集まるため、上流には魚もいません。また、樹木が多く集まる場所はなかなか低木に光が当たらないため、老木は後輩に譲るように倒れ、そこに光が当たり新たに次の世代交代がなされるという話に一番食いついたのは園長でした(笑)



2 学期がスタートしました。1 学期は子どもたちが新しいクラスと新たな友達関係を気づき安心して過ごせるように関係性を積み上げてきた日々でしたが、2 学期は安心できる環境の中で思いっきり自己発揮するときです。心揺れ動く出来事が多々あるかと思いますが、すべてが子どもの育ちに繋がります。共に温かく見守っていきたいですね。